

アジア研究 I

担当教員 仲里 効

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この授業は、共通科目の半年間の講義であるため、アジアに関するごく基本的事項の認識と再確認を主眼としている。アジアに関する基本的知識と様々な問題や課題の所在を確認したい。そして、受講生各自の関心に基づき、アジアに関する多種多様な導入口を見いだし、その関心の持続とより個別的な課題の探求のきっかけとなるような授業をこころがけたい。

【授業の展開計画】

日本はアジアに多くの植民地を領有し、戦争につき進み、そして敗れた。戦後70年。この70年は日本とアジア、そして日本とアジアの結節点に位置する沖縄にとってどのような経験だったのかを、「サンフランシスコ条約体制」という視点から考えてみたい。予定しているテーマは以下のとおりである。

授業の内容

- 1 近代日本の植民地主義①（琉球処分と台湾領有）
- 2 近代日本の植民地主義②（韓国併合と中国侵略）
- 3 近代日本の植民地主義③（「南洋群島」と委任統治）
- 4 日本の敗戦とポツダム宣言
- 5 「サンフランシスコ条約体制」とはなにか①（「朝鮮」処理をめぐる）
- 6 「サンフランシスコ条約体制」とはなにか②（「台湾」処理をめぐる）
- 7 「サンフランシスコ条約体制」とはなにか③（「千島」処理をめぐる）
- 8 「サンフランシスコ条約体制」とはなにか④（「琉球」処理をめぐる）
- 9 アジアの戦争①（朝鮮戦争）
- 10 アジアの戦争②（ベトナム戦争）
- 11 文学作品からみるベトナム戦争と沖縄
- 12 映像作品からみるベトナム戦争と沖縄
- 13 社会運動からみるベトナム戦争と沖縄
- 14 「辺境東アジア」とせめぎあうアイデンティティ①
- 15 「辺境東アジア」とせめぎあうアイデンティティ②
- 16 沖縄から見たアジア、アジアから見た沖縄

【履修上の注意事項】

私語厳禁

【評価方法】

出席、レポートの二点を勘案して総合的に評価するが、その中でとくにレポートを重視する。ただし、出席は原則として毎回確認するので、レポートを提出したとしても、欠席の多い受講生は不可にする。

【テキスト】

授業では、適時プリントを配布する。

【参考文献】

授業の中で、毎回複数の参考文献を明示する。学期末には、その中から関心をもったテーマに関する文献を読んで、レポートの課題とする

アジア研究Ⅱ

担当教員 仲里 効

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

この授業は、共通科目の半年間の講義であるため、アジアに関するごく基本的事項の認識と再確認を主眼としている。アジアに関する基本的知識と様々な問題や課題の所在を確認したい。そして、受講生各自の関心に基づき、アジアに関する多種多様な導入口を見だし、その関心の持続とより個別的な課題の探求のきっかけとなるような授業をこころがけたい。

【授業の展開計画】

アジアの近代は、欧米列強と日本による植民地化の歴史であった。戦後もその負の遺産は解消されることなく冷戦構造下で孤立と分断を強いられてきた。アジアにとってそのことはどのような経験として受けとめられたのか、そして脱植民地化への道をどのように歩んだのかを、映画と文学作品を通して考えていく。予定しているテーマは以下の通りである。

授業の内容

- 1 日本の近代とアジアの近代
- 2 アジアの植民地地図
- 3 ブルース・リーと香港（1）
- 4 ブルース・リーと香港（2）
- 5 台湾ニューシネマとポスト植民地問題
- 6 侯孝賢と『非情城市』
- 7 『非情城市』と2・28事件
- 8 王童と『無言の丘』
- 9 植民二世と〈故郷〉（森崎和江と安部公房）
- 10 李香蘭と東アジア（1）
- 11 李香蘭と東アジア（2）
- 12 「クレメンタインの歌」（金時鐘）と植民地経験
- 12 「クレメンタインの歌」（金時鐘）と4・3事件
- 13 『パッチギ』と〈在日〉
- 14 『パッチギ』とイムジン河
- 15 「台湾行き数え歌」と「魚群記」（目取真俊）の世界
- 15 映像集団NDUの試みとその軌跡

【履修上の注意事項】

私語厳禁

【評価方法】

出席、レポートの二点を勘案して総合的に評価するが、その中でとくにレポートを重視する。ただし、出席は原則として毎回確認するので、レポートを提出したとしても、欠席の多い受講生は不可にする。

【テキスト】

授業では、適時プリントを配布する。

【参考文献】

授業の中で、毎回複数の参考文献を明示する。学期末には、その中から関心をもったテーマに関する文献を読んで、レポートの課題とする。

アメリカ研究

担当教員 佐藤 学

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この科目は、アメリカ合衆国を、多面的・多層的に見ていくための基礎を学び取ることを目的とする。良く知っているはずの、最も重要な国であるが、あなたは、どれだけ「本当の」アメリカ合衆国を知っていますか？担当教員は、米国政治を専攻する政治学研究者であるが、この科目では、社会・文化も含めた幅広い題材を使って、アメリカ合衆国を理解するための視座を提供するつもりである。

【授業の展開計画】

成績評価は、レポートによる。他、授業への参加（質問、質問への回答）も考慮する。

週	授 業 の 内 容
1	歴史の概要と国の形「アメリカ合衆国の光と影」
2	政治の姿：大統領と連邦議会、連邦政府と州政府、民主党と共和党
3	政治の姿：続き
4	アメリカ経済はなぜ「強い」のか：経済と産業の姿
5	アメリカ経済はなぜ「強い」のか：政府の役割、大学の役割
6	アメリカで暮らす（1）：住宅
7	アメリカで暮らす（2）：教育・仕事
8	アメリカで暮らす（3）：医療・生活環境
9	アメリカで暮らす（4）：食生活ー1
10	アメリカで暮らす（5）：食生活ー2
11	アメリカのメディア：新聞、雑誌、TV, インタネット
12	公民権運動：アメリカ合衆国の栄光
13	軍の国、銃の国：外交、安全保障、国内治安
14	日米関係を考える
15	世界の中のアメリカ合衆国
16	

【履修上の注意事項】

高校までに学習したアメリカ合衆国に関する知識を復習しておくこと。新聞の国際記事を読む習慣をつけること。

【評価方法】

レポートを課す。出題については、事前に説明する。

【テキスト】

使用しない。授業レジュメと資料を配布する。

【参考文献】

講義内で適宜紹介する。

アラブ研究 I

担当教員 エルサムニー イブラヒム アリー

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「アラブの文化」というテーマで、アラブの文化、歴史、アラブ社会の現状について紹介したいと思います。まず、イスラム教が起こる以前のアラブの国々の状況を取り上げます。それから、イスラム教が起こってから現在までの、アラブ社会の様々な生活場面について述べる予定です。あわせて、アラビア語の初歩も講義したいと思います。

【授業の展開計画】

1. イスラム教が起こる前のアラブ社会（背景）
2. イスラム教の発生（イスラム教の経典「コーラン、ムハンマド予言者の教え「スンナ」）
3. イスラム教が起こってからのアラブ社会に与えた影響（次のことについて）
 - (1) 結婚（結婚する前の男性と女性の関係、結婚までの段階）
 - (2) 出産（男の子が産まれた場合、女の子が産まれた場合、出産後の儀式）
 - (3) 離婚（離婚の段階、慰謝料）
 - (4) 女性の在り方（母親、主婦、妻として）
 - (5) 家族（両親の役割、長男の役割、産児制限、親に対する子供の役割、遺産相続）
 - (6) 衣食住（アルコールと豚肉が禁止されている理由、食生活と健康のかかわり、女性及び男性の服装、寝室の分け方）
 - (7) 日常生活（昼寝習慣、紅茶と水たばこの雑談会、木曜日の夜の集会、金曜日の礼拝）
4. 初心者アラビア語講座
5. 初心者アラビア語講座
6. 初心者アラビア語講座

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席と日頃の受講態度で評価する。
評価テスト行う場合もある。

【テキスト】

特になし、必要に応じてコピー資料を配布する。

【参考文献】

アラブ研究Ⅱ

担当教員 エルサムニー イブラヒム アリー

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

「アラブの文化」というテーマで、アラブの文化、歴史、アラブ社会の現状について紹介したいと思います。まず、イスラム教が起こる以前のアラブの国々の状況を取り上げます。それから、イスラム教が起こってから現在までの、アラブ社会の様々な生活場面について述べる予定です。あわせて、アラビア語の初歩も講義したいと思います。

【授業の展開計画】

1. イスラム教が起こる前のアラブ社会（背景）
2. イスラム教の発生（イスラム教の経典「コーラン」、ムハンマド予言者の教え「スンナ」）
3. イスラム教が起こってからのアラブ社会に与えた影響（次のことについて）
 - (1) 生活習慣（病気のと看、モアイ、心のささえ、コーヒーカップの占い、手相の占い、死亡について）
 - (2) 祭りと祝い（断食「ラマダン」、断食後の祭りなど）
 - (3) 文化と教育の関わり（男女共学についての考え方、学校休み、教科書の内容）
 - (4) アラブと他の宗教との関係（キリスト教、ユダヤ教）
 - (5) 墓地（埋葬の仕方、墓の形、向き、場所について）
 - (6) 女性の服装（ブルカ、ヘジャブ）、一人の夫が同時に二人以上の妻を持つこと（一夫多妻）について
4. アラブの文化とアラブの諸問題の関係（パレスチナ問題、テロの問題）
5. アラブの文化と沖縄の文化の共通点（ライフスタイル、心のささえ、モアイなど）
6. 初心者アラビア語講座
7. 初心者アラビア語講座
8. 初心者アラビア語講座

【履修上の注意事項】

【評価方法】

中間テストと期末テストを行う。
出席と日頃の受講態度を加味して評価する。

【テキスト】

特になし、必要に応じてコピー資料を配布する。

【参考文献】

国際経済

担当教員 当銘 学

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

産業革命、運輸革命、エネルギー革命、情報通信革命は一国の経済活動の領域を拡大させ、もはや一国で経済が成り立たない。米国を軸とする第二次大戦後の新たな世界経済の枠組みは、日本などの先進工業国の台頭と列強諸国の植民地から多くの独立国を誕生させる一方で南北問題を浮上させた。「金本位制」「為替制度」「ガット体制」「IMF体制」「市場統合」「資本移動」「国際収支」「WTO協定」「エネルギー問題」「ハイテク技術」等の国際経済のキーワードを軸に歴史的・総括的に整理し理解することで世界経済の課題を考察する。

【授業の展開計画】

関連するテレビ特番のビデオや新聞・雑誌等の記事を教材として活用する。

週	授 業 の 内 容
1	Introduction
2	大航海時代(財の移動・交換手段)
3	覇権国家の変遷(資金の調達手段)
4	ボックス・ブリタニカ(貿易の基礎理論)
5	アメリカ経済の勃興(インフラ投融資)
6	大戦間の国際経済(為替・関税)
7	戦後の国際経済体制(ブレトンウッズ体制)
8	まとめ、レポート閲覧、テスト
9	50年代の国際経済(ドル散布)
10	60年代の国際経済(ドル危機)
11	70年代の国際経済(金融派生商品の誕生)
12	戦後の国際貿易の自由化(関税・非関税の削減と撤廃)
13	80年代の国際経済(貿易摩擦)
14	90年代の国際経済(貿易・投資のルール)
15	国際経済Now(TPPなど)
16	レポート提出とテストを行います

【履修上の注意事項】

時事経済に関心をもつこと。レポートはワープロで作成すること。

【評価方法】

1000点満点 出席点：450点、レポート：300点、テスト：250点
レポートと出席状況、理解度確認のためのテスト(2回)により総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定はしない。板書ならびにプリントを使用する。

【参考文献】

『世界経済入門』 西川 潤著 (岩波新書出版)、『世界経済図説 第二版』 宮城 勇・谷屋禎三 著 (岩波新書出版)、 『ゼミナール 国際経済入門』 伊藤元重著 (日本経済新聞社)

国際政治

担当教員 山本 章子

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

国際政治が、外交、安全保障、社会、経済に広く関わることを理解してもらう。例えば、フランス・ルノーの子会社、日産自動車は、世界中20か所で製造し、160か所以上で販売する多国籍企業だ。米国政府は、国際機関GATTの規則に反し、日産などへの販売規制をとろうとして日本政府と対立した。日本との領土問題・歴史問題を抱える中国政府は、日産を悪質企業と批判している。日産の従業員数は約14万人、ここに海外工場を支えるパートタイマーは含まれない。日産はMLRSなど武器も開発する（MLRSは、湾岸戦争・イラク戦争で使われたロケット砲）。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	主権国家体系 近代国家の条件(1) 主権
2	近代国会の条件(2) nation
3	近代国家の条件(3) 領土
4	非政府組織(1) 国連と国際機関
5	非政府組織(2) NGO
6	リアリズムとリベラリズム リアリズムの時代：勢力均衡と安全保障のジレンマ
7	リベラリズムの模索：第一次世界大戦と国際連盟
8	リベラリズムの限界：第二次世界大戦
9	リアリズムvsリベラリズム：冷戦／国連／脱植民地化
10	コンストラクティビズムの登場：冷戦後の世界
11	グローバリゼーション グローバル市場経済の発展
12	多国籍企業
13	グローバリゼーションと貧困
14	移民・難民
15	環境問題
16	テスト

【履修上の注意事項】

教員が一方的に講義を行うのではなく、クイズやロール・プレイング・ゲームを通じて、受講者一人ひとりに考えてもらうので、寝るだけ、友達と話すか携帯をいじるだけ、ノートをとるだけの講義態度では不可とする。

【評価方法】

毎回配る出席用紙に、クイズへの答えを書いてもらうことで、出席状況と授業参加姿勢を見る。期末に行うテストは、毎回行ったクイズの中から出題する。
出席・授業参加姿勢70%、期末テスト30%の総合評価とする。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

ロビン・コーエン／ポール・ケネディ 『グローバル・ソシオロジー I—格差と亀裂』 平凡社、2003年

国際平和学 I

担当教員 大城 尚子

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

現代世界では、人・物資・情報が以前よりも頻繁に国境を越えて行き交い、一国の出来事が他国の日常生活に影響を与える。受講生は、これらの諸現象を把握し、相互に関係しあう国際的、国内的要因を比較・分析し、明らかにできるようにする。また、受講者が時事問題を理解する上での、基本となる見方を理解し、説明できることが本講義の目的である。

【授業の展開計画】

本講義は基本的に講義形式であるが、できるだけインタラクティブ（教員と学生が双方向にやりとりを行う）授業を目指す。そのうえで、受講生は毎回の授業の予習・復習を行い、講義中に講義内容で不明な点に関する質問と意見を述べてもらう。また、毎回の講義で振り返りシートを講義中に記入してもらい、翌回の授業の冒頭で復習する。

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクションー「平和」ならびに「平和学」とは何か
2	平和学の形成と発展①
3	平和学の形成と発展②
4	積極的平和と消極的平和
5	沖縄で国際平和学を学ぶ①
6	沖縄で国際平和学を学ぶ②
7	戦争責任者の問題ー伊丹万作の書簡から
8	国連の取り組み①ー国連の歴史とその役割
9	国連の取り組み②ー民主的平和論とその問題
10	国連の取り組み③ー国連人権高等弁務官事務所設立の意義
11	沖縄と国際人権論
12	人間の安全保障①ー人間の安全保障とは
13	人間の安全保障②ー国連の取組から
14	グローバル化とオルターグローバル化
15	人権NGOの取り組みー国際NGOの活動を中心に
16	試験

【履修上の注意事項】

新聞をよく読むこと（特に国際関係、平和、基地、人権など） 私語、携帯電話の使用など周囲に迷惑のかかるような行為はしない。「国際平和学 I」では、平和学の理論と平和と戦争に関わる問題に絞って講義し、「国際平和学 II」では、その理論を踏まえて世界の「暴力」や「紛争」の事例を中心に授業を行う。そのため、後期の受講は前期を履修した学生であることが望ましい。

【評価方法】

出席用紙に講義に関するコメントを書いてもらう。それにより出欠状況と授業参加姿勢をみる。レポート、期末試験を総合して判断、評価する。出席・授業参加姿勢（30%）、レポート（40%）、期末試験（30%）

【テキスト】

毎回、講義のレジュメと資料を印刷して配布する。

【参考文献】

石原昌家・仲地博編『オキナワを平和学する』法律文化社、2005年、ブルース・ラセット『パクス・デモクラティア』東京大学出版、1996年、ヨハン・ガルトゥング著、高柳先男、塩屋保、酒井由美子訳『構造的暴力と平和』中央大学出版部、1991年

国際平和学 I

担当教員 西岡 信之

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

第2次世界大戦終結から70年、世界は再び「平和の危機」が訪れています。「イスラム主義」を名乗るテロ集団が、テロを行っています。しかし彼らは、米英をはじめとするグローバル資本主義各国が育てたものです。タリバン、「イスラム国」等は、社会主義国への対抗や反政府勢力として、組織・育成される中で登場してきました。グローバル資本がもたらす格差・貧困、戦争で犠牲となった市民の憎悪が彼らの温床となっています。空爆など武力行使で彼らを克服することは出来ません。さきのイラク・アフガン戦争を検証していく中で、「平和の危機」を作り出した原因と方法を究明し、武力行使をとまなわぬ平和的解決方法を展望します。

【授業の展開計画】

前期の講義では、米国の戦争＝イラク・アフガニスタン戦争をとりあげ、開戦の真相、戦争犯罪の実態、狂気の兵士を生み出すシステム、そして帰還兵の証言によって、兵士そのものが被害者であったことがわかります。こうした戦争システムに対抗する世界の新しい非暴力の運動、市民の不服従抵抗などを考察します。国内外情勢の急変があれば、講義内容もその都度、変更し対応します。

週	授 業 の 内 容
1	国際平和学入門ガイダンス — 積極的平和主義とは何か
2	市民自治 — 米国カリフォルニア州バークレー市がめざす町づくり
3	イラク・アフガニスタン戦争とは何だったのか ① 捏造された開戦理由
4	イラク・アフガニスタン戦争とは何だったのか ② 「イスラム国」はどうして生まれたのか
5	イラク・アフガニスタン戦争とは何だったのか ③ イラク反戦帰還兵の会 — 良心の告発
6	イラク・アフガニスタン戦争とは何だったのか ③ 戦争犯罪の実相 — 戦火の下の人々
7	イラク・アフガニスタン戦争とは何だったのか ④ 反戦帰還兵の沖縄 — 貧困の徴兵制
8	イラク・アフガニスタン戦争とは何だったのか ⑤ 女性兵士がみた戦場 — PTSDからの生還
9	イラク・アフガニスタン戦争とは何だったのか ⑥ アフガン女性 — マラライ・ジョヤの闘い
10	イラク・アフガニスタン戦争とは何だったのか ⑦ パキスタンの少女 — マララがめざす社会
11	イラク・アフガニスタン戦争とは何だったのか ⑧ イラク戦争を問う — 英国・検証の波紋
12	イラク・アフガニスタン戦争とは何だったのか ⑨ 戦争犯罪を問う — 国際戦犯民衆法廷
13	イラク・アフガニスタン戦争とは何だったのか ⑩ 帰還兵の闘い — 戦争を止める若者たち
14	軍隊のない27の国家 — 非武装で平和をつくる
15	国際平和学がめざすもの — 戦争をなくすために
16	補講等、調整日

【履修上の注意事項】

スマート・フォンやタブレットなどの通信機器の使用は認めない。私語、携帯電話の使用など周囲に迷惑のかかるような行為はしない。また大幅な遅刻や早退、途中退席などは、授業参加姿勢に課題があると評価します。

【評価方法】

出席票に講義に関する感想、意見、質問などのコメントを毎回書いていただきます。それによって出欠状況と授業参加姿勢を見ます。期末にレポートを提出していただきます。出席・授業参加姿勢とレポートで評価を行います。試験は行いません。

【テキスト】

特に指定しません。
毎回、レジュメと参考資料を配布します。

【参考文献】

『ピース・ナウ沖縄戦 — 無戦世界のための再定位』石原昌家編著（法律文化社）、『市民の平和力を鍛える』前田朗著（ケイ・アイ・メディア）、その他は、講義の中でその都度紹介します。

国際平和学Ⅱ

担当教員 秋山 道宏

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

国際平和学Ⅱ

担当教員 大城 尚子

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

現代世界では、人・物資・情報が以前よりも頻繁に国境を越えて行き交い、一国の出来事が他国の日常生活に影響を与えている。受講生は、これらの諸現象を把握し、相互に関係しあう国際的、国内的要因を比較・分析し、明らかにできるようになる。また、受講生は、個人、社会内部、国家間や民族間、地域や文明間の紛争事例を通して、どのような考えをもとに平和を構築することができるかを説明できるようになる。

【授業の展開計画】

本講義は基本的に講義形式であるが、できるだけインタラクティブ（教員と学生が双方向にやりとりを行う）授業を目指す。そのうえで、受講生は毎回の授業の予習・復習を行い、講義中に講義内容で不明な点に関する質問と意見を述べてもらう。また、毎回の講義で振り返りシートを講義中に記入してもらい、翌回の授業の冒頭で復習する。

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション——国際平和学と「私」
2	平和って誰がつくるの？
3	あなたのとりのゲイの人
4	みかんをどうやって分ける？
5	「言語」と平和
6	「ウチナーグチ」について
7	レポートの課題設定
8	5つの紛争解決の方法—トランセンド法から—
9	コミュニティと平和
10	身のまわりにある差別問題①
11	身のまわりにある差別問題②
12	戦争の記憶と祈念館
13	軍事基地と人権①
14	軍事基地と人権②
15	平和を構築するとはどういうことなのか
16	試験

【履修上の注意事項】

本講義は、前期の「国際平和学Ⅰ」の理論を踏まえて世界で起きている「暴力」や「紛争」の事例を中心に行う。そのため、後期の受講は前期を履修した学生であることが望ましい。新聞をよく読むこと（特に国際関係、平和、基地、人権など）。私語、携帯電話の使用など周囲に迷惑のかかるような行為はしない。

【評価方法】

出席用紙に講義に関するコメントを書いてもらう。それにより出欠状況と授業参加姿勢をみる。レポート、期末試験を総合して判断、評価する。出席・授業参加姿勢（30%）、レポート（40%）、期末試験（30%）

【テキスト】

毎回、講義のレジュメと資料を印刷して配布する。

【参考文献】

ヨハン・ガルトゥング著、藤田明史、奥本京子監訳『ガルトゥング紛争解決学入門』法律文化社、2014年、木戸衛一編『平和研究入門』大阪大学出版会、2014年、石原昌家・仲地博編『オキナワを平和学する』法律文化社、2005年

国際理解課題研究 I

担当教員 李 ヒョンジョン

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、東アジアのなかでも最も日本の隣国であり、相互理解の面においても欠かせることができない韓国に焦点を当てる。地理的に近い国でありながら、両国家間の政治的・歴史的要因から文化理解の面で長い時期断絶されていたものの、近年においては「韓流」というサブ・カルチャー的要素が一躍買っている現状がある。今後、サブ・カルチャー的要素だけにとらわれず、真の相互理解を深めることは大変重要である。講義では、韓国の歴史や社会、文化などに触れながら、日本・沖縄と比較していくことで、日本人としての自文化を再認識するとともに、今後における日韓の相互理解について考察していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス「講義の流れ、評価方法など」	17	研究調査の方法と論文作成について
2	東アジアにおける日本と韓国「概要と歴史」	18	テーマ設定と自己計画シート作成
3	韓国の社会1「生活・経済」	19	文献探索と発表・討議
4	韓国の社会2「教育制度と今日の教育事情」	20	文献探索と発表・討議
5	韓国の社会3「IT社会と韓国語の変容」	21	計画遂行における見直し1
6	グループ発表と討議	22	テーマに沿った調査報告
7	韓国の文化1「行事をめぐる伝統文化」	23	テーマに沿った調査報告
8	韓国の文化2「衣・食・住」	24	テーマに沿った調査報告
9	韓国の文化3「伝統から現代へ」	25	計画遂行における見直し2
10	グループ発表と討議	26	調査結果の分析とまとめ
11	日韓相互理解1「韓国における日本観」	27	調査結果の分析とまとめ
12	日韓相互理解2「日本における韓国観」	28	研究結果の発表
13	日韓相互理解3「文化リテラシーの必要性」	29	研究結果の発表
14	グループ発表と討議	30	研究結果の発表
15	前期のまとめ	31	後期のまとめ・自己評価
16	後期の流れとテーマ設定に関する討議		

【履修上の注意事項】

各自がテーマを設定し論文を書くという前提で受講すること。
自己計画シートを作成し、積極的に遂行していく姿勢を重視する。
また、協働のなかで自分の役割をしっかりと果たせるように頑張ってもらいたい。

【評価方法】

授業参加度（30%）とグループまたは個人発表・課題（70%）などを合わせて評価する。

【テキスト】

テーマに合わせて随時プリントを配布する。

【参考文献】

北尾謙治 他（2005）『広げる知の世界－大学での学びのレッスン－』ひつじ書房
小此木政夫 他（2012）『日韓新時代と東アジア国際政治』慶應義塾大学出版会
その他、必要に応じて講義のなかで紹介する。

国際理解課題研究 I

担当教員 上江洲 律子

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本にとっては他者というべき「ヨーロッパ」を、物語や映画などの表象を通して考察することで、知識と同時にものの見方の幅を広げることを目標とします。前期は、まず、童話『星の王子さま』をテキストとして物語に内包されるヨーロッパの状況を読み解いた後、対象を映画(アニメ)『王と鳥』に変えて同様に考察します。後期は、履修している学生の方々が、それぞれ興味のあるテーマを、文化や芸術、歴史や言語、政治や経済などの分野から取り上げて考察し、発表を行います。発表と参加者全員による討論を通して、お互いにヨーロッパについての考察を深めていきましょう。

【授業の展開計画】

前期期間

後期期間

第01回：ガイダンスと前期分担の決定

第17回：前期の復習と後期分担の決定

第02回：テキストの分析のガイダンス

第18回：発表と討論のガイダンス

第03回：テキストの分析と考察(1)

第19回：発表と討論(1)

第04回：テキストの分析と考察(2)

第20回：発表と討論(2)

第05回：テキストの分析と考察(3)

第21回：発表と討論(3)

第06回：テキストの分析と考察(4)

第22回：発表と討論(4)

第07回：テキストの分析と考察(5)

第23回：発表と討論(5)

第08回：テキストの分析と考察(6)

第24回：発表と討論(6)

第09回：テキストの分析と考察(7)

第25回：発表と討論(7)

第10回：テキストの分析と考察(8)

第26回：発表と討論(8)

第11回：映画の分析と考察のガイダンス(1)

第27回：発表と討論(9)

第12回：映画の分析と考察のガイダンス(2)

第28回：発表と討論(10)

第13回：映画の分析と考察(1)

第29回：発表と討論(11)

第14回：映画の分析と考察(2)

第30回：発表と討論(12)

第15回：映画の分析と考察(3)

第31回：後期のまとめ

第16回：前期のまとめ

【履修上の注意事項】

履修した学生の方々の発表によって生み出される授業です。学生の方々は各自、「ヨーロッパ」という大きな概念に取り組むことで、自らの視野を広げると同時に、真摯な発表を通して口頭によるプレゼンテーション能力を高め、社会で生き抜く力を培うことを目指して下さい。

【評価方法】

主にゼミにおける発表(80%)によって評価します。また、出席(20パーセント)も評価に加味します。

※単位取得のために、授業の3分の2以上の出席を義務付けます。

【テキスト】

サン＝テグジュペリ『星の王子さま』内藤濯訳、岩波書店

※『星の王子さま』は、上記の内藤濯訳をはじめ、数多くの訳本が出版されています。どの訳本でも構いませんので(訳本同士の表現比較も試みます)、各自、事前に入手して目を通して置いて下さい。

【参考文献】

ガイダンスの際に紹介するほか、授業内で必要に応じて紹介します。

国際理解課題研究Ⅱ

担当教員 李 ヒョンジョン

対象学年 4年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、東アジアのなかでも最も日本の隣国であり、相互理解の面においても欠かせることができない韓国に焦点を当てる。地理的に近い国でありながら、両国家間の政治的・歴史的要因から文化理解の面で長い時期断絶されていたものの、近年においては「韓流」というサブ・カルチャー的要素が一躍買っている現状がある。今後、サブ・カルチャー的要素だけにとらわれず、真の相互理解を深めることは大変重要である。講義では、韓国の歴史や社会、文化などに触れながら、日本・沖縄と比較していくことで、日本人としての自文化を再認識するとともに、今後における日韓の相互理解について考察していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	17	研究調査の方法と論文作成について
2	東アジアにおける日本と韓国	18	テーマ設定と自己計画シート作成
3	韓国の社会1	19	文献探索と発表・討議
4	韓国の社会2	20	文献探索と発表・討議
5	韓国の社会3	21	計画遂行における見直し1
6	グループ発表と討議	22	テーマに沿った調査報告
7	韓国の文化1	23	テーマに沿った調査報告
8	韓国の文化2	24	テーマに沿った調査報告
9	韓国の文化3	25	計画遂行における見直し2
10	グループ発表と討議	26	調査結果の分析とまとめ
11	日韓相互理解1	27	調査結果の分析とまとめ
12	日韓相互理解2	28	研究成果の発表
13	日韓相互理解3	29	研究成果の発表
14	グループ発表と討議	30	研究成果の発表
15	前期のまとめ	31	後期のまとめ・自己評価
16	後期の流れとテーマ設定		

【履修上の注意事項】

各自がテーマを設定し論文を書くという前提で受講すること。
自己計画シートを作成し、積極的に遂行していく姿勢を重視する。
また、協働のなかで自分の役割をしっかりと果たせるように頑張ってもらいたい。

【評価方法】

授業参加度（30%）とグループまたは個人発表・課題（70%）などを合わせて評価する。

【テキスト】

テーマに合わせて随時プリントを配布する。

【参考文献】

北尾謙治 他（2005）『広げる知の世界－大学での学びのレッスン－』ひつじ書房
小此木政夫 他（2012）『日韓新時代と東アジア国際政治』慶應義塾大学出版会
その他、必要に応じて講義のなかで紹介する。

国際理解課題研究Ⅱ

担当教員 上江洲 律子

対象学年 4年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本にとっては他者というべき「ヨーロッパ」を、物語や映画などの表象を通して考察することで、知識と同時にものの見方の幅を広げることを目標とします。前期は、まず、童話『星の王子さま』をテキストとして物語に内包されるヨーロッパの状況を読み解いた後、対象を映画(アニメ)『王と鳥』に変えて同様に考察します。後期は、履修している学生の方々が、それぞれ興味のあるテーマを、文化や芸術、歴史や言語、政治や経済などの分野から取り上げて考察し、発表を行います。発表と参加者全員による討論を通して、お互いにヨーロッパについての考察を深めていきましょう。

【授業の展開計画】

前期期間

後期期間

第01回：ガイダンスと前期分担の決定

第17回：前期の復習と後期分担の決定

第02回：テキストの分析のガイダンス

第18回：発表と討論のガイダンス

第03回：テキストの分析と考察(1)

第19回：発表と討論(1)

第04回：テキストの分析と考察(2)

第20回：発表と討論(2)

第05回：テキストの分析と考察(3)

第21回：発表と討論(3)

第06回：テキストの分析と考察(4)

第22回：発表と討論(4)

第07回：テキストの分析と考察(5)

第23回：発表と討論(5)

第08回：テキストの分析と考察(6)

第24回：発表と討論(6)

第09回：テキストの分析と考察(7)

第25回：発表と討論(7)

第10回：テキストの分析と考察(8)

第26回：発表と討論(8)

第11回：映画の分析と考察のガイダンス(1)

第27回：発表と討論(9)

第12回：映画の分析と考察のガイダンス(2)

第28回：発表と討論(10)

第13回：映画の分析と考察(1)

第29回：発表と討論(11)

第14回：映画の分析と考察(2)

第30回：発表と討論(12)

第15回：映画の分析と考察(3)

第31回：後期のまとめ

第16回：前期のまとめ

【履修上の注意事項】

履修した学生の方々の発表によって生み出される授業です。学生の方々は各自、「ヨーロッパ」という大きな概念に取り組むことで、自らの視野を広げると同時に、真摯な発表を通して口頭によるプレゼンテーション能力を高め、社会で生き抜く力を培うことを目指して下さい。

【評価方法】

主にゼミにおける発表(80%)によって評価します。また、出席(20%)も評価に加味します。

※単位取得のために、授業の3分の2以上の出席を義務付けます。

【テキスト】

サン＝テグジュペリ『星の王子さま』内藤濯訳、岩波書店

※『星の王子さま』は、上記の内藤濯訳をはじめ、数多くの訳本が出版されています。どの訳本でも構いませんので(訳本同士の表現比較も試みます)、各自、事前に入手して目を通して置いて下さい。

【参考文献】

ガイダンスの際に紹介するほか、授業内で必要に応じて紹介します。

多民族論

担当教員 石垣 直

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

20世紀そして21世紀は「ナショナリズム・民族紛争の時代」だといわれる。「民族」とは何なのか、それは「国民」とどう違うのか、それは歴史的にどのように形成されてきたのか、それが「問題化」する要因とはなにか？

本講義の主眼は、「民族」・「ナショナリズム」をめぐる歴史のおよび現代的状況を世界各地の具体的な事例に基づいて理解することにある。政治・経済的な視点のみならず、人類学的な観点から「民族」・「ナショナリズム」を取り巻く歴史と現状を解き明かし、多文化共生の可能性を探求する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	「民族」とは何か——本質主義と構築主義
3	映像鑑賞——人類の多様性／一体性と「民族」紛争
4	近代「国民国家」の成立（1）——ウェストファリア体制と絶対王政
5	近代「国民国家」の成立（2）——市民革命と国民国家
6	近代「国民国家」の成立（3）——ウィーン体制から民族主義の時代へ
7	「民族」と「ナショナリズム」論——理論的整理
8	アフリカ——植民地統治、人種隔離政策、「部族」主義
9	映像鑑賞——『ホテル・ルワンダ』
10	ユダヤ・パレスチナ問題——複雑な歴史と大国の利害
11	アジア——スリランカの民族対立、クルド人問題
12	ヨーロッパ——旧ユーゴスラビア紛争
13	We the Indigenous!——先住民族運動のグローバルな展開
14	「多文化主義」という挑戦——「承認の政治学」
15	まとめ——「民族」の歴史と多文化共生社会の構築
16	テスト

【履修上の注意事項】

毎回授業の際に、出席確認をかねて、受講生にレスポンス・ペーパーを配布し、授業に対する感想・質問・意見などを受け付ける。なお、他の受講生の学習を妨害するような言動があった場合には、退席を要求することもあるので注意されたい。

【評価方法】

出席（20%）、筆記試験（50%）、レポート（30%）

毎回の授業時に出席および授業参加姿勢を確認するためのレスポンス・ペーパーの提出をもとめる。

また、学期末には講義内容にかんする筆記試験、ならびに世界各地の民族紛争や民族・エスニシティ論にかんするレポートを課し、出席・授業参加姿勢とともに総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。（毎回の講義ではレジュメおよび資料を配布する）

【参考文献】

アンダーソン、B. 1997（1983）『想像の共同体』NTT出版

ゲルナー、E. 2000（1983）『民族とナショナリズム』岩波書店

松原正毅（編）2002『世界民族問題事典』明石書店

多民族論

担当教員 前原 直子

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態

単位数 2

【授業のねらい】

本授業の主なテーマは、「多文化共生社会に向けて」である。21世紀は一方でますますグローバル化が進み、ヒト・モノ・カネ・情報の地域や国境を越える移動が活発化しているが、他方で、民族や宗教、言語、文化の違いによる対立も目立っている。人類が平和に共存するためには、異文化理解や国際理解を推進し、言語や文化、宗教などの異なる人びとが相互に歩み寄り、人権を尊重する多文化共生社会の形成を目指すことが求められている。本授業では、「国民」や「民族」の枠組みがいつ、どのように形成されたか歴史的に振り返り、私たちの「差異」をめぐる様々な思い込みを内省しつつ、現代日本・沖縄における多文化共生社会への課題を探っていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンスー多文化共生社会に向けて
2	「民族」とはー「われわれ」と「かれら」を区別する「差異」はいかにつくられるのか
3	差異化と排外主義ーヘイトスピーチと「Japanese Only」を例に
4	「国民」や「民族」の枠組みはいつ、どのように始まったかー近代の幕開けと大航海時代
5	近代国家の形成ーフランス革命とアメリカ独立革命
6	アメリカ合衆国における国民形成ー同化と隔離
7	アフリカ分割と「人種」の線引き
8	ヨーロッパ列強の接近から日本の開国ー国防意識の高まりと日本的ナショナリズムの勃興
9	琉球処分と「日本化」政策ー沖縄住民はどのように「日本人」となったか
10	20世紀の2つの大戦と「民族自決」思想の世界的な普及
11	アジアやアフリカにおける国民形成ーエスニック紛争や対立
12	エスニック少数派の地位向上運動と増加する移民ー多文化主義の始まり
13	多文化化する日本社会ー「日本人」とエスニック少数派(マイノリティ)
14	現代日本・沖縄における多文化共生への課題
15	まとめーわれわれ / 彼ら意識の壁を乗り越え、相互に歩み寄るためにできること
16	期末試験

【履修上の注意事項】

授業で配布する抜き刷り資料（計6本程度）は、各自熟読する必要があります。

小テストとは別に、授業の終わりに「振り返りペーパー」を提出してもらうこともあります。授業中は、ペア・グループ活動などに「参加する」こと、教員や他の学生と「コミュニケーションを取る」ことが求められます。初回の授業で注意点などを詳しく説明しますので、受講希望者は必ず出席してください。

【評価方法】

小テスト（各10点×6回＝60点）と期末テスト（40点）を総合的に評価します。小テスト（計6回）は、授業で配布する抜き刷り資料の要約や、授業の内容に関することについて各10点で評価します。出席が3分の2に満たない場合、評価の対象となりません。諸事情による欠席は認めますが、小テストの代わりとなる課題は出してもらえません。

【テキスト】

配布資料や映像教材等を用います。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介します。

ミクロネシア研究 I

担当教員 石川 朋子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

現在、ミクロネシア（グアム、ナウル、キリバスを除く）と呼ばれている地域は、スペイン、ドイツ、日本、アメリカが統治していた。日本は第一次世界大戦後、国際連盟委任統治領として統治していた。本講義では、ミクロネシアの歴史、生活文化、現代社会について、取り上げミクロネシアへの理解を深める。

【授業の展開計画】

1. ガイダンス（登録確認、講義概要等）
2. 導入—太平洋諸島の人々
3. ミクロネシアの地理と自然環境
4. ミクロネシアの地理と自然環境
5. ミクロネシアの歴史
6. ミクロネシアの歴史
7. ミクロネシアの歴史
8. まとめ（テスト又はレポート）
9. ミクロネシアの生活文化
10. ミクロネシアの生活文化
11. ミクロネシアの生活文化
12. まとめ（テスト又はレポート）
13. ミクロネシアの現代社会
14. ミクロネシアの現代社会
15. まとめ（テスト又はレポート）
16. 予備日

【履修上の注意事項】

授業の際に、出席確認をかねて、リアクションペーパー（授業に対する感想、質問、意見、要望等）を提出してもらう。

他の受講生の学習を妨害するような場合は、退席を要求する場合もある。

【評価方法】

出席、リアクションペーパー、レポート、テスト等を総合的に評価する。

【テキスト】

講義は、毎回配布するレジュメと資料等に沿って行う。

【参考文献】

講義のなかで適宜紹介する。

ヨーロッパ研究 I

担当教員 漆谷 克秀

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「ヨーロッパ研究 I」では、主としてドイツを中心としたヨーロッパの現代的な問題を対象にして講義します。ドイツが、ヨーロッパが、どのような未来を模索しているのかを考える契機にしたい。それぞれの問題が、ヨーロッパだけではなく、今日的な国際問題としてわたしたちにも関わっていることを理解していただきたい。

【授業の展開計画】

- 第 1 回：授業の概要
- 第 2 回：ヨーロッパとは何か（地理学的特徴、言語の多様性、ヨーロッパの範囲）
- 第 3 回：ヨーロッパとは何か（地理学的特徴、言語の多様性、ヨーロッパの範囲）
- 第 4 回：元ドイツ連邦共和国大統領ヴァイツゼカーの1985年5月8日の演説
- 第 5 回：元ドイツ連邦共和国大統領ヴァイツゼカーの1985年5月8日の演説
- 第 6 回：1920年代30年代のヨーロッパ
- 第 7 回：1920年代30年代のヨーロッパ
- 第 8 回：ナチズム、アウシュヴィッツ、ナチス追及、歴史家論争
- 第 9 回：ナチズム、アウシュヴィッツ、ナチス追及、歴史家論争
- 第 10 回：二つのドイツ、ベルリンの壁、ドイツ統一
- 第 11 回：二つのドイツ、ベルリンの壁、ドイツ統一
- 第 12 回：ヨーロッパの民族問題、ハプスブルグ家、「中欧」という概念
- 第 13 回：難民問題、ドイツの庇護政策
- 第 14 回：ドイツの極右主義、環境問題（森と軍事基地）
- 第 15 回：ドイツのフェミニズム、ヨーロッパ統合は可能か？
- 第 16 回：テスト

【履修上の注意事項】

出席をとります。ノートを用意して、講義内容を筆記してください。講義を受けていないとわからなくなります。休まないように。質問は歓迎します。再試・追試は一切行いません。

【評価方法】

主に、期末に実施するテスト（60%）によって評価します。また、課題（10%）、出席（30%）も評価に加味します。

【テキスト】

授業内で必要に応じてプリントを配付します。

【参考文献】

授業中に紹介する文献を読むようにしてください。

ヨーロッパ研究Ⅱ

担当教員 藤波 潔

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、ヨーロッパの中でも特有の立場に立つイギリスに焦点を当て、イギリスという国家が有する特徴を歴史的に理解することを目的とする。とくに、「地域」「王室」「宗教」「帝国」をキーワードとして、講義と演習を織り交ぜながら、講義を展開する。その際、新聞記事や映画、イラスト、小説などを題材として用い、ヨーロッパの中でのイギリスの位置づけを、多様な観点から行うことを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス：講義に関するルールは何か？
2	現代の「イギリス」①：英国「王室」はどんな存在か？
3	現代の「イギリス」②：英国を構成する「地域」の特徴は何か？
4	現代の「イギリス」③：英国社会を構成する「人びと」は、どんな人たちか？
5	ヨーロッパの中の「イギリス」①：「英国人」はどこから来たか？
6	ヨーロッパの中の「イギリス」②：英国の統一国家を実現したのは、どんな人びとか？
7	「イギリス」の王室と宗教①：英国王室とフランスとの関わりとは何か？
8	「イギリス」の王室と宗教②：英国王室の「自立」とヨーロッパ諸国との関わりとは何か？
9	「イギリス」の王室と宗教③：英国の「宗教改革」とは、どんな改革だったのか？
10	「イギリス」の王室と宗教④：英国国教会とカトリックとの関係はどうなったのか？
11	「イギリス」の王室と宗教⑤：エリザベス1世の統治が生み出した「英国」とは何か？
12	大英帝国の社会と文化①：「大英帝国」の特徴とは何か？
13	大英帝国の社会と文化②：ヴィクトリア朝時代の特徴とは何か？
14	大英帝国の社会と文化③：『シャーロック・ホームズ』の中に表れる大英帝国とは何か？
15	まとめ：ヨーロッパにおける「イギリス」の位置づけとは何か？
16	

【履修上の注意事項】

- ① 本講義は、2013年度まで開講された「イギリス研究」を引き継いだ内容となっている。
- ② 本講義を履修するための前提条件はない（ヨーロッパ研究Ⅰを未修得でも履修できる）。
- ③ 出席は毎回必ず取る。

【評価方法】

レポート（60%）、ワークシート（25%）および平常点（15%）の総合評価とする。
なお、それぞれの評価基準については、最初の講義の時に説明する。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。

【参考文献】

- ①近藤和彦『イギリス史10講』（岩波書店、2013年）、②指昭博（編著）『はじめて学ぶ イギリスの歴史と文化』（ミネルヴァ書房、2012年）、③井野瀬久美恵（編）『イギリス文化史』（昭和童、2010年）、④黒岩徹・岩田託子（編）『ヨーロッパ読本 イギリス』（河出書房新社、2007年）、ほか

ラテンアメリカ研究

担当教員 稲村 幸子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ラテンアメリカと呼ばれる広大な地域の社会と文化について、主に地理的・歴史的視点からその共通性と多様性を理解し、現代ラテンアメリカ社会の諸問題に関心を持つことができるように授業を進めていく予定です。現在の社会は過去の出来事の積み重ねと捉えれば、ラテンアメリカ社会が直面している問題を正しく理解し、さらに未来について考察するには、歴史的知識は不可欠なものだと考えるからです。ラテンアメリカを語るときに基本となる用語、事項について簡潔に説明できるようになることを目標とします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	「ラテンアメリカ」とは
2	南アメリカの地理 ブラジルを中心に
3	南アメリカの地理
4	中央アメリカの地理
5	先史時代
6	先スペイン期のメソアメリカ文明
7	先スペイン期のメソアメリカ文明およびアンデス文明
8	先スペイン期のアンデス文明
9	「発見」から征服・植民地時代（スペイン領を中心に）
10	植民地時代（スペイン領を中心に）
11	ラテンアメリカ諸国の独立（1）
12	ラテンアメリカ諸国の独立（2）
13	カリブ海諸国について
14	ラテンアメリカと日本
15	現代ラテンアメリカの諸問題
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

授業は講義形式で行います。毎回、まとめと確認のための小テストを行います。

【評価方法】

授業ごとの小テストと学期末テストの合計で評価します。

【テキスト】

特に指定しません。授業の中で必要に応じてプリントを配布します。

【参考文献】

『物語ラテン・アメリカの歴史—未来の大陸』（中公新書） 増田 義郎
また授業の中で、内容ごとに文献の紹介をします。